

改革労協 弾劾Ⅱ

# 日刊 労働千葉

86. 12. 24

No. 2439

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

# 「日の丸」反共の旗かけ 安保自衛隊賛成を叫ぶ「鉄道労連」

労働革新マル・松崎や鉄労・志摩らによってデッチ上げられようとしている「鉄道労連」が右翼的労働戦線統一にむけて全労協に「参加」し、要求、政策が一致する政党・団体とは「協力・共同」する。そして、「左右の全体主義を排除し共産主義と対決したものであること」などと、反共主義の右翼マル生組合なることを宣言したのである。

「新労組」は共産主義と対決  
「鉄道労連」の運動基調は六項目からなり、その五、六項目において

- 五、新組合は、労働戦線統一の大事業に寄与する。そのため全労協、その移行する連合体に参加し活動する。
- 六、新組合は、鉄道労働者としての社会的責任に立脚し、目的達成にむけ要求
- ・政策が一致する政党・団体と必要により協力・共同する。左右の全体主義は排除する。

とうたっている。しかも、「改革労協」が十一月一日デッチ上げた「旅客鉄道労

## 国鉄分割

### 鉄道唱歌で「滅私奉公」 北海道 国労外し労使が大合唱

（は）はえあれ交通 思えよ国運 奉公ひとに 身をもてさぞ けん  
昭和九年にできた「鉄道精神の歌」（北原白秋作詞、山田耕粹作曲）が今、北海道各地で歌われている。分割・民営化にあたって、二人は職場を去らねばならない北海道の国鉄マン。その苦悩の象徴であり、同時に、当局の方針に抵抗する国労などを包摂する歌でもあ

る。  
八月三十一日、札幌で開かれた「新しい北海道の鉄道を創る職員の大集い」。国鉄北海道総局の幹部と分割・民営化推進グループの職代表、国労と全労協を除く六つの労組幹部（千五百人の男たちがアメリカ映画「ロッキー」のテーマ音楽に合わせて入場行進）

「新進行部隊」「両心」の公一「一心会」「日の出会」……。プラカードには根拠物語をき



両心な行進曲に乗って入場する国鉄分割・民営化推進派グループ 八月三十一日午後、札幌市民会館で

わしい名前がさらりと並んだ。フィナーレは、全員が起立。労働、破壊、徳義、修養などの言葉をちりちりめ、滅私奉公がテーマの「鉄道精神の歌」を大合唱した。  
一方、分割・民営化に抵抗している国労札幌地本（奥野清委員長）は今月初め、全労協の白旗を盛り込んだ運動方針を採択した。しかし、八月には、札幌の国鉄前職工場、国労脱退者三十二人が「国鉄車両労働組合前職工場支部」を結成した。札幌区を中心とした施設部門の国労組合員の間にも、新組合結成の動きが出ている。  
現在、北海道の国鉄内労組の組織状況（八月現在）は、動労や鉄労など分割・民営化推進グループの七千二百二十人。これに対して国労と全労協は合わせて一万四千九百八十八人で、過半数割れは時間の問題になりつつある。

よせよ！ 砕粉を攻撃破壊組織で結束な団固の強族の組合員全